

saveMLAK ニュースレター

第 40 号

桃山学院大学の司書課程で saveMLAK の紹介

私は 2009 年度から、桃山学院大学の藤間真先生ご担当の司書課程で、ゲスト講義を受け持たせていただいています。年間 2 コマないし 3 コマの講義を担当し、2012 年度からは saveMLAK のことも学生たちに話しています。

年度によって少しずつ話す内容は変わってきていますが、当初は①「震災復興支援活動を支える IT ～ saveMLAK などの活動～」、②「専門職のネットワーク ～ saveMLAK を例に～」といったタイトルで、2 コマを講義していました。今年度(2015年)は①がなくなり、saveMLAK について講義するのは②だけです。

内容をかいつまむと、以下の通りです。

1. なぜ文化施設の復興が必要なのか
→MLA は「地域の記憶の場」である
2. 文化施設の被害状況を写真で紹介
3. プロボノの意義、情報専門職の役割
4. saveMLAK の立ち上げから現在までの経過
5. どんな人が参画しているのか
6. saveMLAK は何ができて何ができない
／できていないのか
7. ボランティア活動の難しさ。大勢の人間のネットワークが生む齟齬
8. 「だれどこ回答団」で作成した原発関連資料の事例
9. 「次の災害に備える」=saveMLAK メソッド
10. ネットワークの力を活用することの大切さ
11. ネットワークとは、「人と人のつながり」



saveMLAK は MLA 連携の成功事例の一つである、として紹介しています。さまざまな困難もありながら活動を継続していることを強調しています。

この講義を受けた学生たちがコメントシートに感想を書いてくれているので、一部を紹介しましょう。

「saveMLAK というものをはじめて聞いたけれども、有志でボランティアで協力合って WIKI を書いていたり活動がすごいと思いました」

「文化資料はただ生きるためだけならば必要ないが、少しでも知的な生活をしようと思えばそれらは必須のもの。震災でそれらの財産を失ってしまうと取り返しがつかない」

学生たちは一様に、図書館などの被害について心を痛め、文化施設も被害に遭ったという当たり前のことを知らなかった、ということに気づいて驚いています。saveMLAK のことはもちろん誰も知りません。プロの情報専門家がネットワークの力を駆使して、ボランティアで WIKI の何万ページものサイトを構築していることに感動してくれます。なかなか素直でよい子たちです。

災害はこれからも必ずやってくる、そのための備えが大事だということ、震災を忘れないことも復興支援なのだ、と講義で話すと、うなずきながら聞いてくれます。若い世代がわたしたちの活動に興味を持って志を繋いでくれることを私はひそかに期待しています。

【谷合佳代子】

(エル・ライブラリー (大阪産業労働資料館) 館長)

saveMLAK のファンド係担当

saveMLAK 活動紹介

個人的に参加したイベントで、saveMLAK の紹介をしたので報告します。

①MALUI Talk in Kyoto & 近畿地区 MALUI 名刺交換会

2015 年 6 月 7 日、MALUI Talk in Kyoto & 近畿地区 MALUI 名刺交換会が開催されました。名刺交換会のみ参加したのですが、オープンマイクの時間があつたため、saveMLAK の活動紹介をしてきました。活動歴の他、saveMLAK メソッドに重点をおいて紹介すると、博物館の関係者が「詳しく聞きたい」と興味を示してくれました。阪神大震災や東日本大震災の後、防災対策の必要性は感じているがなかなか実践できていない、開催館に合わせたシナリオで訓練できる saveMLAK メソッドは魅力的に感じる、とのことでした。

チラシを持っていくのを忘れてしまったのが反省点ですが、saveMLAK のことはあまり知らない MALUI 関係者の前で、活動を紹介できたことは良かったと思います。

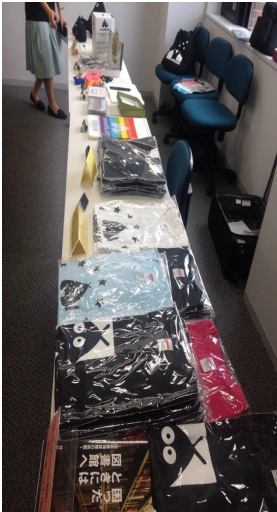
②平成 OSAKA 天の川伝説を眺めながら交流する会

2015 年 7 月 7 日、大阪・北浜のイベントスペースで開かれた七夕イベントに参加しました。「平成 OSAKA 天の川伝説」とは川に星に見立てた青色ダイオードを放流し、天の川を再現するというイベントです。このイベントを眺めながら市民同士交流する、というのが標記の会の趣旨でした。参加者の活動 PR が推奨されていたので、saveMLAK のチラシを配布しました。15 名ほどの小規模な会で saveMLAK のことも知らない参加者ばかりでしたが、本好きな人も多く、活動紹介の反応は良かったです。みんなの経済新聞ネットワーク「船場経済新聞」の記者も来ていて、面識を得られたことも収穫でした。

【小村 愛美】

次ページへ
つづくよ

saveMLAK のグッズについて



グッズには、マグネット (2 個セット) (500 円)、クリアファイル (200 円)、ぬいぐるみ (200 円)、MLAK ポストカードセット (300 円)、震災写真ポストカードセット (200 円)、T シャツ (2,000 円) などがあります。グッズの売り上げは saveMLAK の活動資金 (サーバー代など) になります。大半のグッズは江草が保管しています。

イベントなどで、グッズを売っています。例えば、最近では、次のイベントで以下のような売上がありました。

★saveMLAK 報告会売上分 19,400 円 (2015-06-22)

クリアファイル 200 円 × 7 = 1,400 円
黒トート 2,000 円 × 5 = 10,000 円
T シャツ (再販) L ドピンク 1 = 2,000 円
T シャツ (再販) M 黒 1 = 2,000 円
T シャツ (再販) M ドピンク 1 = 2,000 円
MLAK ポストカード (セット) 300 円 × 2 = 600 円
震災写真ポストカード (セット) 200 円 × 2 = 400 円
マグネット (2 個入り) 500 円 × 2 = 1,000 円
(売り子: 江草 由佳)

★図書館問題研究会第 62 回全国大会売上分 8,800 円 (2015-07-05)

クリアファイル 200 円 × 4 = 800 円
黒トート 2000 円 × 3 = 6,000 円
ぬいぐるみ 500 円 × 4 = 2,000 円
(売り子: ふじた まさえ)

★図書館総合展フォーラム 2015 in 長崎 売上分 8,400 円 (2015-07-11)

マグネット (2 個入り) 500 円 × 3 = 1,500 円
クリアファイル 200 円 × 12 = 2,400 円
黒トート 2,000 円 × 2 = 4,000 円
ぬいぐるみ 500 円 × 1 = 500 円
(売り子: 箱田 愛)

江草が出席するイベントであれば、グッズ、おつり、ポップ、のぼり、など、当日は手ぶらで来て、売り子をすればよだけというセットを持っています。

売り子および、売り場スペースのための折衝をしてくれる方を募集します。

ご連絡お待ちしております。

【江草由佳】

統計 8 月末現在

saveMLAK ML アカウント数	281 (+0)
総ユニーク Wiki 編集者アカウント数	545 (+10)
Wiki 編集回数の総計	149,103 (+575)
総 Wiki ページ数	29,694 (+130)
総 Wiki 施設ページ数	25,676 (+0)

7・8 月の出来事と今後の予定

2015 年 7 月 22 日

- 第 52 回 saveMLAK MeetUp を実施。複数拠点をつないで開催 (東京、大阪、福岡)。

2015 年 8 月 18 日

- 第 53 回 saveMLAK MeetUp を実施。複数拠点をつないで開催 (東京、大阪、福岡)。

2015 年 9 月 15 日

- 第 54 回 saveMLAK MeetUp を実施。複数拠点をつないで開催 (東京、大阪、福岡)。

転載: <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>: ニュース より

saveMLAK 会計報告 2015 年 7・8 月期収支 8 月末現在

《収入》

グッズ売上	17,200	図書館総合展等
受取寄付金	3,120	有志、個人
受取利息	14	みずほ銀行
計	20,334	

《支出》

源泉徴収税	2,042	税理士報酬
広報費	10,800	総合展参加費
通信費	23,693	サーバ代
支払手数料	432	振込手数料
計	36,967	

《 8 月末現在 残高》

708,548 円 (前月比 -16,633 円)
【ファンド係: 赤塚 昌俊】

編集後記

夏も過ぎ去ってしまいました。第 40 号をお届けします。
【今号編集担当: 久戸瀬 瑞季】

編集発行: saveMLAK プロジェクト

発行日: 2015 年 9 月 24 日 (第 40 号)

発行所: 神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル

さくら Works <関内>408

アカデミック・リソース・ガイド株式会社内

saveMLAK プロジェクト

E-mail: pr@savemlak.jp

URL: <http://savemlak.jp/>

